

三菱食品株式会社
2014年度(2015年3月期)
第2四半期 決算説明会

2014年11月10日

目次

1. 2014年度(2015年3月期)第2四半期(2014年4～9月)
決算概要
2. 2014年度施策の実行状況

1. 2014年度(2015年3月期)
第2四半期決算概要
(2014年4~9月)

2014年度(2015年3月期)第2四半期 連結業績(前期比)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度	
	実績	実績	前期比
売上高	11,956	11,880	▲76
営業利益	69	59	▲10
経常利益	77	71	▲6
四半期純利益	48	47	▲2
1株当たり 四半期純利益(円)	84.53	81.49	▲3.04
1株当たり配当金(円)	21.00	21.00	0.00
純資産	1,237	1,331	93

- ◆ 売上高は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減や夏場の天候不順の影響等により▲0.6%の減収
- ◆ 利益面は、売上高の減少や物流费率の上昇の影響等により減益
- ◆ 配当は、基本方針である安定配当の維持から前期と同額

2014年度(2015年3月期)第2四半期 品種別売上高(前期比)

(単位:億円)

	2013年度		2014年度		前期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	率(%)
缶詰・調味料類	1,356	11.3	1,318	11.1	▲38	▲2.8
麺・乾物類	743	6.2	721	6.1	▲22	▲3.0
嗜好品・飲料類	1,389	11.6	1,336	11.2	▲53	▲3.8
菓子類	1,207	10.1	1,262	10.6	54	4.5
冷凍食品類	2,117	17.7	2,210	18.6	93	4.4
チルド食品類	2,339	19.6	2,366	19.9	27	1.1
ビール類	1,286	10.8	1,166	9.8	▲120	▲9.4
その他酒類	945	7.9	926	7.8	▲19	▲2.0
その他	574	4.8	576	4.9	3	0.5
合計	11,956	100.0	11,880	100.0	▲76	▲0.6

- ◆ 嗜好品・飲料類は、夏場の天候不順の影響等により減少
- ◆ 冷凍食品類は、簡便化志向に高まりにより業務用冷凍商材が堅調に推移し増加
- ◆ ビール類は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減及び夏場の天候不順の影響等により減少

2014年度(2015年3月期)第2四半期 業態別売上高(前期比)

(単位:億円)

	2013年度		2014年度		前期比増減	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	率(%)
卸売	1,113	9.4	1,082	9.1	▲31	▲2.8
GMS	950	7.9	945	7.9	▲5	▲0.5
SM	4,506	37.7	4,429	37.3	▲76	▲1.7
CVS	3,632	30.4	3,689	31.1	57	1.6
ドラッグストア	435	3.6	458	3.9	23	5.3
ユーザー	285	2.4	303	2.5	18	6.5
その他直販	869	7.2	819	6.9	▲50	▲5.7
メーカー・他	166	1.4	155	1.3	▲11	▲6.8
合計	11,956	100.0	11,880	100.0	▲76	▲0.6

- ◆ SMは、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減、夏場の天候不順の影響等により減少
- ◆ CVSは、カウンター商材の伸長や本業態の新規出店効果等により増加
- ◆ その他直販は、ディスカウントストアとの取引が減少

2014年度(2015年3月期)第2四半期 B/S(前期比)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度 第2四半期	
	3月末	9月末	前期比
流動資産	4,645	4,675	30
固定資産	1,185	1,201	15
総資産	5,830	5,875	46
流動負債	4,335	4,342	8
固定負債	234	203	▲31
負債合計	4,569	4,545	▲24
純資産	1,261	1,331	69
1株当たり純資産(円)	2,186.59	2,308.55	121.96
自己資本比率	21.4%	22.5%	1.1P

2014年度(2015年3月期)第2四半期 特別損益明細(前期比)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度	
	実績	実績	前期比
投資有価証券売却益	4	1	▲3
固定資産売却益	2	1	▲1
その他	0	-	▲0
【 特別利益 】 計	5	2	▲4
固定資産売却損	0	1	1
減損損失	2	2	▲0
その他	1	0	▲1
【 特別損失 】 計	3	3	▲0
特 別 損 益	2	▲1	▲3

- ◆ 引き続き投資有価証券や遊休資産等の売却を進めたことにより売却損益が発生
- ◆ 不稼働資産の売却等に係る減損損失の発生

2014年度(2015年3月期)第2四半期 セグメント別業績(前期比)

(単位:億円)

	売上高				営業利益		
	※ 2013年度	2014年度	増減額	増減率(%)	※ 2013年度	2014年度	増減額
加工食品	3,831	3,722	▲110	▲2.9	19	11	▲8
低温食品	4,668	4,793	125	2.7	55	49	▲5
酒類	2,237	2,101	▲136	▲6.1	1	0	▲1
菓子	1,209	1,253	43	3.6	▲7	1	8
その他・調整	10	12	2	22.4	1	▲3	▲4
合計	11,956	11,880	▲76	▲0.6	69	59	▲10

※2014年度から物流業務受託取引収支及び共通コスト等の各セグメントへの配賦基準を実態にあわせ変更しており、同基準により2013年度実績数値を組み替えております。

- ◆ 加工食品:消費増税の駆け込み需要の反動減等により売上高減少、物流費の増加等に伴い減益
- ◆ 低温食品:売上高は堅調に推移するも、原材料費の価格上昇、物流費等のコスト増加により減益
- ◆ 酒類:消費増税の駆け込み需要の反動減等により売上高減少、物流費率の上昇等により減益
- ◆ 菓子:CVSやSM、GMS等との売上拡大、業務精度向上等による収益性の改善、3期振りに黒転化

2014年度(2015年3月期)第2四半期 連結業績(予想比)

(単位:億円)

	2014年度 第2四半期		
	業績予想	実績	業績予想比
売上高	12,100	11,880	▲220
営業利益	53	59	6
経常利益	60	71	11
四半期純利益	41	47	6
1株当たり 四半期純利益(円)	71.75	81.49	9.74
1株当たり配当金(円)	21.00	21.00	0.00

- ◆ 売上高は想定以上の消費増税の駆け込み需要の反動減や夏場の天候不順の影響等により減少
- ◆ 営業利益・経常利益は売上高減少に伴う売上総利益の減少を物流費率の改善等により計画達成

2014年度(2015年3月期)第2四半期 設備投資等の状況

(単位:億円)

	第2四半期実績		【ご参考】 年間計画	
	投資額	償却額・ 支払リース料	投資額	償却額・ 支払リース料
設備投資(リース含む)	29	27	53	61
システム開発等	15	6	48	13
合 計	44	33	100	74

- ◆ 設備投資は、低温事業のインフラ整備が中心
- ◆ システム開発等は新たな経営基盤の整備として着手した次世代システム構築が中心
(中核システムは2016年度稼働開始予定)

2014年度(2015年3月期)通期 業績予想

(単位:億円)

	2014年度 第2四半期実績		2014年度 通期業績予想	
	実績	売上比(%)	業績予想	売上比(%)
売上高	11,880	—	24,400	—
営業利益	59	0.5	165	0.7
経常利益	71	0.6	180	0.7
当期純利益	47	0.4	110	0.5
1株当たり 当期純利益(円)	81.49	—	192.51	—
1株当たり配当金(円)	21.00	—	42.00	—

2. 2014年度施策の実行状況

当社を取り巻く環境の再認識



物価上昇圧力の高まり →  ← 価格転嫁への抑止力

流通構造の疲弊

バリューチェーン全体の地盤沈下が生じている

抜本的な構造改革が生き残るための必須条件

流通全体の最適化によるコストダウン
ビジネス領域の変革、新たな価値創造による差別化

戦略の方向性と2014年度施策の進捗状況①

流通構造における全体最適の実現

✓従来の商習慣の抜本的見直し

→ 提供機能と結果に応じた合理性ある取引形態への移行を推進

✓コスト構造の透明化

→ 取引採算を重視した新管理会計制度の導入による可視化の実現

✓機能集約に向けたパートナーシップの構築

→ メーカー等との物流・営業機能の合理化、三菱商事との重複機能の是正

戦略の方向性と2014年度施策の進捗状況②

ビジネス領域の変革、新たな価値創造

✓販売領域、チャネルの拡大

→ 生鮮・デリカ領域でのマルイチ産商との提携推進、
EC・ギフトビジネスの拡大

✓商品開発、商品発掘、共同企画の強化

→ 生活者・生産者ニーズのマッチングによる
機能性商品や企画の提案

✓地域密着型営業機能の再構築

→ 連結子会社の再編による
きめ細かな顧客支援体制の実現